

パートナーシップ通信
13年次-7号



～ ひがしの風から～

東青山小学校 地域教育コーディネーター
高橋 直子
連絡先: 080-2094-9712
E-メール: higashiaoyama.es.partner@docomo.ne.jp



コーディネーター高橋

私はこの地域に住んで11年目。特に避難を経験することなく今まで過ごしてきました。しかしこれからそうとは限らない。ハザードマップをしっかりと確認しようとは思っていたんだけど…、あれ？どこに片づけたんだろう…。避難するとしたら、私はどこに行けばいいのかな…？どこが安全なの？何だか不安になってきたなあ。

教えて！防災士の 高橋さん！

教えて！地域のみなさん！



① 日頃の備えを確認しよう

家の中を確認してみましょう。

家具の固定はしていますか？地震の揺れで家具が倒れ、下敷きになってしまうことはもちろん、避難する通路をふさぐことにもなります。また、家具の上に重いものを積んでいませんか？落下の可能性も考えられます。重さの重いものを下に、軽いものの上に置いて収納すると安定します。

地震など大規模な災害が起きた時、自宅での避難生活を余儀なくされる可能性があります。こうした事態に備えるために、日頃から、最低でも3日分、できれば1週間分の家庭での食料品等の備蓄が必要と言われています。



実際に避難所に避難することを想像してみてください。

食事に工夫が必要な家族(アレルギーがある・高齢者)がいる場合などは、その人が口にできる食事を各家庭で準備しておくことが必要になります。また、ペットと一緒に避難を考えたとき、ペット用品も必要となります。家族同様に過ごしているペットですが、避難所での受入れ状況は様々ようです。

新型コロナウイルス対策拡大防止！



感染症対策のため、マスクや手袋、除菌のための用具も必要となります。

避難所を利用する方同士、お互いの不安を高めないように準備しておきましょう。

自分の身を守るために、できることを行いましょう。

もっと身近に！

いざという時！

迷わないために

ぼうさい

防災を考える



防災士の高橋伸絵さんにお話を伺いました。地元消防団に所属し、地域の防災について、多くの人に安心安全を伝える活動を行っています。毎年行われる、地域合同避難訓練にもご協力いただいています。



防災士 高橋さん



避難所としての学校とは！？

東青山小学校は災害時、避難所として開設されます。行政・学校・地域で協力して開設準備を進めます。小学校での避難というと、体育館にシートを敷いて過ごすイメージがあるかもしれませんが。しかし今は、コロナ対策の観点からも、職員室など一部を除く、各教室を使うようなレイアウトが考えられています。高齢の方には、床に畳やマットが敷いてあるといいですね。

東青山小学校は、川が近いこともあり、基本的には3・4階への避難を行います。昨年、地震時に避難所開設となった時、地域の皆さんは4階音楽室でしばらく過ごされていました。

毎年行われる地域合同避難訓練には、避難所としての学校を知ってもらおうという目的もあります。災害はいつ、どんな状況で起きるか予想できません。学校の児童引き渡し訓練、地域の防災行事には、ぜひ参加しましょう。体験し、知ることが防災への第一歩です。

② ハザードマップで確認を！

今回、高橋さんと一緒にハザードマップを見てみました。まず、自分はどのような地域に住んでいるのかを知ることが大切です。東青山小学校は海拔1メートルと記されています。小新方面は全体的に土地が低い場所であることが分かります。小針青山公民館前の道路、大堀幹線沿いも低くなっています。(平成10年8月 大雨により小針青山公民館前で48センチの浸水) 災害時、車を使つての避難は、危険な場合があることが分かりました。どこを通過して避難所に行くのか考えることも必要です。東青山小の学区内にも、大雨の影響を受けやすいとされる場所があります。昨年は大雨により長野県で千曲川が氾濫、時間差で下流の新潟県にも影響が出ました。その日、新潟県内の天候は悪くなかったはず…。予期しない出来事でした。

③ 避難の多様化 自分に合った避難を考える

避難所に行くことだけが避難ではありません。在宅避難や垂直避難(自宅の2階や、集合住宅の高層階に避難する)など、自分に合った避難を考えることも必要です。親戚や知人宅に避難するなども、分散避難の選択肢のひとつと言えます。高齢者、乳幼児がいる場合など、どうしたら少しでも安心して過ごすことができるのかを考えてみましょう。また、避難所に行く以外の選択をした場合も、避難所で提供される情報や、支援は受けることができます。

④ マイ・タイムライン



マイ・タイムラインとは、気象情報を確認し、いつ避難行動を開始するのか？ということ。避難経路・避難場所・非常持ち出し品・家族の状況を確認し避難行動をどの段階で始めればいいのか、日頃から考えておきましょう。テレビやラジオ、ネットで正しい情報を確認しましょう。“にいがた防災メール”などを利用する方法もあります。



地域の ちから

⑤ 地域の支え合い

地域の茶の間、地域の祭り・・・防災とは関係ないようにも思えることも実はご近所にどのような人がいるのかを知るきっかけになります。困ったときに助け合える関係づくりは、これからでも始められること。

小学校などの避難所から離れた地域の場合、公園などが一時避難所となっています。一時避難所は、災害時、家屋から離れた安全な避難場所として使われるほか、地域の人が集まり情報の共有と、避難の相談などを行える場所です。相談できる人が近くにいると安心できますね。